検査を施行し，肝癌の High risk group を中心に US を併用した．

（結果）延べ924名に US を施行し，原発性肝癌 3 例（0.3%），転移性肝癌 1 例（0.1%），肝血管腫 5 例（0.5%），肝嚢胞13例（1.4%）計22例の限局性肝疾患が発見された．原発性肝癌 3 例中 1 例は US で見落したが AFP は全例陽性（234～22,000ng/ml）であった．又 US では肝血管腫 4 例中 2 例を肝癌と誤診した．原発性肝癌 3 例中 2 例は 3cm 未満の小肝癌で肝切除術が施行された．

（結論）肝癌の集検 US と AFP を併用した結果，原発性肝癌の発見率は0.3%（3/924）であった．現在，我我は50才以上の男性で HBs 抗原性の肝機能異常者を住民から 1 次スクリーニングして，US と AFP を併用している．

12. CT 上，上咽頭に腫瘤形成を認めた白血病と神経芽細胞腫

横山 道夫・黒川 茂樹（新潟市民病院放射線科）
前田 春男
高野美紀子（同 小児科）
村松公美子（同 内 科）

症例1．急性リンパ性白血病の経過中に上咽頭及び鼻腔に急速に腫瘤を形成し，呼吸困難をきたした27才の女性．

症例2．腹部神経芽細胞腫の術後に上咽頭附近に転移をきたし，呼吸困難と鼻出血がみられた 9 才の男性．

以上の 2 症例について CT 像を中心にのべるとともに，いずれの症例にも放射線治療の効果が著明であったことを報告した．

また，若干の文献的考察を加えた．

13. 高安動脈炎における DSA の有用性について

捧 彰・木村 元政（新潟大学放射線科）
酒井 邦夫

intvavenous digital subtraction angiography（DSA）の施行されている18例の大動脈炎症候群症例にいて検討した．外来で施行できる DSA 検査は，大動脈炎症候群のスクリーニング，経過観察として有用である．又，大動脈炎症候群確定診断のため必要とされる大動脈造影の役割りを DSA は十分に果たすものと考えられる．

特 別 講 演

「NMR の画像診断」

東京大学医学部 放射線医学教室教授
飯 尾 正 宏 先生